

様式2 令和5年度 清瀬市立清瀬第三中学校 学校評価表

学校教育目標	人間尊重の精神を基盤とし、希望に満ちた社会をめざす健康で明るく、知性ある人間を育成する。1. 思いやりのある生徒・思考力 2. 自主性のある生徒・行動力 3. 協力する生徒・人間力	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)	<ul style="list-style-type: none"> 【目指す学校像】 生徒、教職員共に互いを認め合い、安心・安全に生活でき笑顔で気持ちよく挨拶ができる学校 【目指す児童・生徒像】 思いやりのある生徒、自主性のある生徒、協力する生徒 【目指す教師像】 確かな学力を身に付けさせる教師、生徒から目標とされる教師、自己研鑽に励む教師 	1教育活動全体で命の教育についての指導を実施するとともに、人権尊重を意識した教育活動を展開し、自尊感情や自己有用感を高めさせ、自他の命を大切に育てる。 2生徒の主体性を意識した学校生活を向上させるための取組を充実し、これからの時代に必要な資質・能力を育成する。また、市民ボランティア等の協力を仰ぎ、生徒の学校生活の充実を図る。 3体験活動への主体的な取組を推進するとともに、保護者や地域を巻き込んだ取組を取り入れ、より多くの考えや意見に触れることを通して視野を広げさせ、他と共に学ぶことのよさを体感させる。

前年度までの学校経営上の成果と課題

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習定着のための取組実施。(各コンテスト・検定試験・ライフの活用) 長期休業中、放課後、定期考査前の補習学習の実施。 授業での見通し(ねらい)と振り返りを実践する 教科の特性に応じたICT機器の活用。 	3	3	基礎学力定着のために、日々の小テストや主題、単元テスト等に対する取り組みや補充的な学習時間の確保が必要である。生徒に達成感や成就感を味わわせることが大切で	家庭学習定着のための取組について、小中で連携し習慣化させていく取り組みを検討していく。補習学習については、定期考査前や長期休業中に実施できているので、普段の授業での小テスト単元テスト、宿題等の休み時間、放課後等の補充的な学習を取り入れていく。また、長期休業中の補習については計画的に学校全体で取り組んでいく。	
	<ul style="list-style-type: none"> 授業での見通し(ねらい)と振り返りを意識して授業している教員が多くない。特に振り返りについては、評価材料として利用してためにも今後、研修、改善が必要である。 ICTの活用が不十分な要因として、大画面テレビの台数の問題やタブレットの活用方法が十分に理解していない。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の方法について明確に示してあるが、授業規律を含め、実践につなげてほしい。 小学校でのICTスキルを向上させてほしい。そのためにも、どの場面でも、どの単元で、どのように使用したらよいのかを研究すべきである。 	校内研修を通して、研究授業や授業参観期間を設定し、互いに教員同士で高め合う事で授業改善に向けて取り組んでいく。また、授業でICT機器の活用を進めることで個に応じた指導の推進に努めていく。そのために、大型テレビの購入し、生徒用タブレットの活用を生かしていく。	
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳」の実施。 各教科の中で人権に関わる内容を意識的に取り上げ、自他を尊重する意識を向上させる。 年間5回のふれあいアンケートの実施によりいじめの未然防止、早期発見 地域清掃、落ち葉掃き、雪かき活動 職業調べ 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「自他の言動について「考えて」「想像」し、やっつけられないこと、良いことモラルやマナーについて、互いに考えを深める時間(道徳科)を作る。また、保護者や地域の力を有効活用してほしい。また、ほめるで励ます指導も大切である。 	年間の35時間の道徳科の授業を、指導案の検討、タブレットの活用、ロールプレイなど主体的に協働して学べるスタイルを確立していく。特に命の大切さについては、学年、学校全体で年間計画をもとに計画的に進めていく。	
	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回のふれあいアンケートより教育相談に時間の確保し、生徒理解、いじめの未然防止、早期発見に繋がった。 警察署と連携し地域清掃を実施や落葉掃き、地域行事のボランティアに参加し、体験的な活動を通して、勤労の尊さや意義を理解し、自己肯定感、自己有用感を高めることができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「昨今、いじめの捉え方や対応の難しさは、十分に理解しているが、一担任の対応ではなく、情報共有し組織的に対応してほしい。複雑な家庭環境のある場合は、地域の力や外部感を活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいアンケートやアセスを活用し、生徒理解、人間関係を分析し、教育相談や生徒指導に生かしていく。また、いじめ撲滅に向けた生徒主体の活動を取り入れていく。 体験的な活動をより多く取り入れ、自己肯定感や自己有用感を育て、自信をもって挑戦できる態度を養う。 	
健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業での30分間水泳、12分間持久走。 準備運動の工夫による体力向上。 毎月、保健だよりを発行し、健康について啓発する。 委員会活動(昼の放送、食育講話)で食育教育の充実を図る。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 持久力については、体力テストの結果より、向上しているが、柔軟性に課題がある。 筋力トレーニングや馬跳びなど俊敏性、バランス感覚などの基礎運動能力を養っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の部活動以外の運動が少ない。家庭環境、地域環境が変わっていく中で、地域の施設を活用したサークルやクラブ活動を利用してほしい。十分な受け入れができるわけではないが、学校教育だけでは難しさを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の準備体操等でより多く柔軟やストレッチを取り入れ、怪我予防のためだけでなく、運動感覚や基礎運動能力の向上につなげていく。 体力テストの結果を活用し、個々の課題に気がかせ、主体的に運動能力の向上に取り組める教材や方法を検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 季節、行事等、日常生活に適応し、様々な健康情報を伝達し、自他の健康について啓発できている。病気の予防や怪我・事故への危険予知も実施した。 食育については委員会が中心となって進め、地産地消、栄養面、残さい0キャンペーンなどの取り組みを行った。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 保健便りや給食便りなど、健康に関わる大切な内容が示されているので、配布するだけでなく、活用、実践してほしい。 給食試食会が、コロナ明け久しぶりに開催され良かった。食材等の高騰により、今建て作成に苦労されていることであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育について、地産地消の食材や地域行事の献立など栄養士や養護教諭が中心となり食に対する関心や態度を育てる。 給食委員会や保健委員会、図書委員会など食に係る広報活動を積極的に取り組んでいく。 	
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教室利用生徒への一貫した指導・支援を行う。 	4	4	多様化する特性にある子供たちが、健やかに育ち、学べる環境、支援方法が検討されていることは、素晴らしいことである。今後も、地域人材も活用して行って欲しい。	特別支援教室専門員を中心に巡回指導教員と学級担任、教科担任が、支援方法や子ども変容などを情報共有を密に行っていく。また、教職員全体の特別支援教育に対する理解を進める。	
	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援校内委員会、およびステップルームを活用し、教室復帰を目標とした個別支援を行う。 	4	4	不登校出現率が減少していることは、素晴らしいことである。個々の対応をより効果的になるよう今後も、対応してほしい。	今後も特別支援校内委員会では、スクールカウンセラーに積極的につなげたり、ステップルームでの支援方法を考えたりと個別の支援について検討し、実行していく。また、不登校生徒の個別の指導計画を活用し、支援員、学生ボランティアの支援の向上に努める。	
本校の特色	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(高校、事業所) 道徳(命の講話) SNS安全教室(企業) 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 高校の先生のマナー講座やセーフティ教室でSNS講座、命の教育講話など、講師を招聘し、安全指導、命の大切さ、自他の尊重について考えを深められた。今後、3年間を一貫した、より計画的に行われるように進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材を多く取り入れていることで、子供たちの体験的な経験や主体的な活動に期待したい。 今後も地域の人材、企業等を活用し、連携を進 	<ul style="list-style-type: none"> 特熱活動や総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、より計画的に企画、運営し、意図的、組織的に取り組んでいく。 今後は、CSを鑑み、より地域人材を活用を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 専門家による剣道の指導(授業) 外部指導員による技術向上(部活動) 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の成果を運動会等で保護者、地域の方に見ていただき、激励や指導支援を仰いでほしい。 部活動の顧問体制で苦労しているようだが、生徒や保護者のニーズに答えるのは限界があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日は、剣道から空手に変えることで、運動会で成果発表の場とし、生徒の変容や達成感や成就感を味わわせていく。 部活動指導員、課外部活動指導員をそれぞれ任用して、部活動の技術向上を図る。任用する部活動に広げていき生徒の活動を活発にしてい。活動の成果を情報発信し、保護者や地域の方に周知する。 	